

活動地

マレーシア ボルネオ島サラワク州 & 半島部クダ州



クダ州ムルボック湿地保護林
マングローブ林再生プロジェクト

サラワク州アペン国立公園
青少年研修プログラム



サラワク州「青少年プログラム」

熱帯林再生のための植林活動を実施し、2016年末に国立公園(永久保護区)となった、サラワク州スリアン地区アペン国立公園内にある「木下の森」や、地域の学校などにおいて、子供たちや日本とマレーシアの青年たちが植林プログラム等に参加し、森林保全の大切さを学ぶ『青少年研修プログラム』を実施しています。

「木下の森」にて、地域の子供たち(小中高校生)、教員、大学生、村人を招き、植林・メンテナンス作業体験や、トレッキングなどにより森林保全の大切さを学ぶプログラムを実施しています。

2021年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の活動制限や規制が行われたため、「木下の森」で子供たちが参加するプログラムを実施できませんでしたが、「木下の森」で1,600本の植林、地域の小中学校へマスク寄贈、大学生が参加するマングローブ植林を実施しました。

「木下の森」で植林活動

「木下の森」にて、地域の村人の参加を得て、1,600本(4hba)の植林とメンテナンス作業を行いました。フタバガキ科在来種を中心に、村の女性が育てた果樹の苗木も植林しています。

植林樹種は以下の通りです。

- ①Meranti Sarang Punai / Shorea parvifolia
- ②Luis / Hopea spp.
- ③Kapur Bukit / Dryobalanops beccarii
- ④Bintangor batang putih / Calophyllum lowei
- ⑤Nyatuh Babi Daun Kecil / Palawium psendocumeatum
- ⑥Cempedak / Artocarpus integer
- ⑦Durian / Durio
- ⑧Kristal / Pometia pinnata
- ⑨Petai / Parkia speciosa
- ⑩Rambutan / Nephelium lappaceum

* ⑥~⑩は果樹

「木下の森」活動地域の小中高校へマスクを寄贈

マレーシアでは、2020年3月以降、小中高校は休校となり、一部期間を除いて、学校内での授業は行われませんでした。2022年1月から、分散登校の形で学校が再開しました。

引き続き、学校ではマスク着用で、街中でもマスク着用義務があるため、収入の少ない活動地域の村落では、マスクを常備するための負担が大きくなっています。

そのため、「木下の森 青少年研修プログラム」の一環として、日本からマスクをサラワク州へ送付し、植林活動地域にある小中高校や村落への寄贈を継続しました。

2021年度は、2万1500枚のマスクを寄贈したほか、手洗い用の消毒液を活動地域の小学校へ寄贈しました。村落や学校から大変ありがたいとの声が寄せられました。今後も、引き続き定期的なマスクと消毒液の寄贈を行います。

大学生が参加するマングローブ植林を実施

日時 2022年3月30日(水)午前9時~12時

場所 サラワク州クチン地区ブンタル沿岸地域

参加者 マレーシア・サラワク大学生25名、ブンタル村住民20名、サラワク州森林局関係者等計50名。

ブンタル村沿岸地域で、波浪による土地の浸食を防ぎ、村人がカニや貝などを採取することができるようにするため、マングローブの苗木1,000本を沿岸地域に植林しました。

活動の様子



2007年に植えた木が大きく成長



育苗と植栽木のメンテナンスの様子



今年度の植林用苗木を育苗



地域村落で女性が育てた果樹の苗木を買い取り(左)、「木下の森」へ運搬(右)



植林準備作業



「木下の森」で1,600本の苗木を植林



サラワク州ブンタル沿岸地域でマングローブ植林を実施(2022年3月30日)
ブンタル村住民、マレーシア・サラワク大生、サラワク州森林局員など50名が参加



活動地域の学校で「木下の森」環境教育プログラムについて打合せ



サラワク州森林局(左)と森林公社(右)で活動予状況について報告



「木下の森」活動地域の村落でマスクを配布



活動地域の小学校へマスクと消毒液を寄贈



活動地域の中高校(左)と小学校(右)へマスクを寄贈